

「AV&IT 機器世界需要動向 ～ 2019年までの展望～」を発行

フラットパネルテレビ、パーソナルコンピュータ、タブレット端末の国内需要 タブレット端末は1000万台突破の見込み

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) CE部会では、平成26年度事業としてAV及びIT機器の需要動向に関する調査を実施し、その調査結果を報告書に取りまとめ、「AV&IT 機器世界需要動向 ～ 2019年までの展望～」を発行致しました。報告書の中から、フラットパネルテレビ、パーソナルコンピュータ、タブレット端末の国内需要についてご紹介致します。

【フラットパネルテレビ】

フラットパネルテレビの世界需要は2014年に2億2,346万台となりました。2019年には2億7,532万台になると見込んでいます。日本では、2011年までの家電エコポイント制度による購入支援や地上デジタルテレビ放送完全移行に伴うテレビの買い替え・買い増し特需があり、その反動から2013年に続き、2014年も549万台と低い水準となりました。

今後は、デジタルテレビをいち早く購入したユーザの買い替え時期が近づいていることやケーブルテレビ事業者によるデジアナ変換サービス終了(2015年3月)に

伴う買い替え需要、並びに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての需要増が期待されることから、2019年には735万台と地デジ化特需前の水準に近づくと見込んでいます。

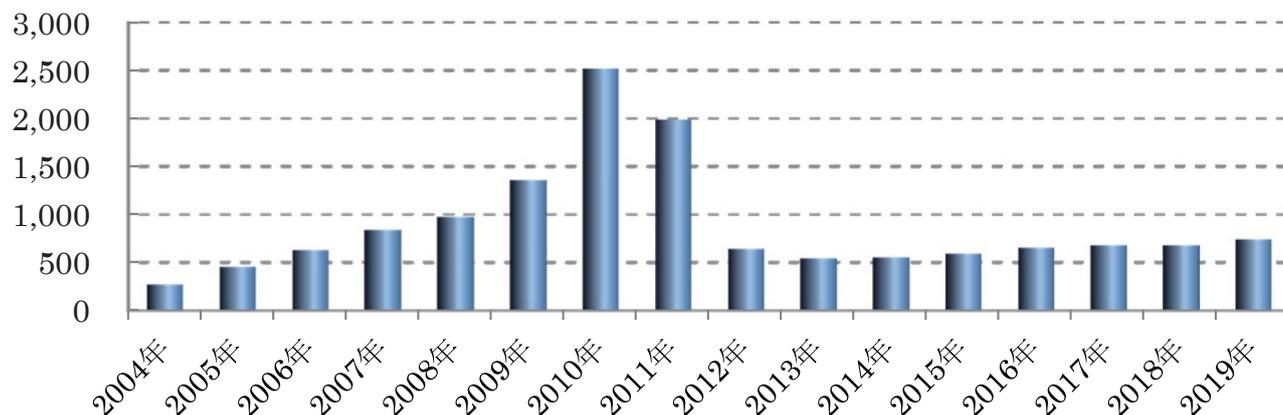
また、2014年6月に124/128度CSデジタル放送における4K試験放送が開始され、2015年3月には4K商用放送サービスの開始が予定されており、大型モデルを中心に4Kテレビへの移行が期待され、2019年には4K(対応)テレビの国内需要は575万台に達すると見込みました(2014年は26万台)

【パーソナルコンピュータ】

2014年の日本のパーソナルコンピュータの需要は、1,537万台となりました。

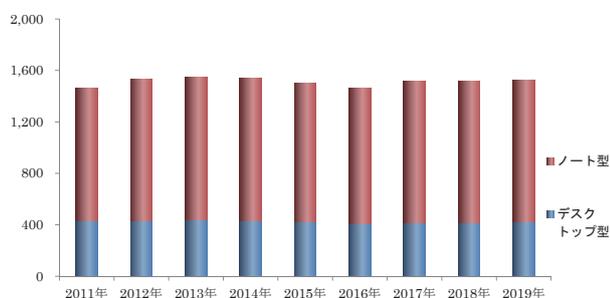
2014年前半には、旧OSのサポート終了に伴う個人や企業のリプレース需要に加えて、消費税増税の駆け込み需要があり、PCの需要を拡大させ、2014年後半はその反動の影響もあり、通年でみると2013年と同等の需要となりました。2015年～2016年までは、リプレース

日本のフラットパネルテレビ需要台数(万台)



需要の反動減が見込まれますが、2017年以降は、特に2012年から2013年に堅調であった企業系のリプレース分の増加が期待でき、2019年の需要は1,528万台と見込んでいます。

日本のパーソナルコンピュータ需要台数（万台）



【タブレット端末】

日本では、製品ラインアップが拡充されたことで、一般ユーザへの普及や企業における導入が進んできており、2014年の需要は836万台となりました。

今後は、セキュリティの向上や利用シーンの増加により企業における導入が増加するとみられ、更に、政府による高度情報通信ネットワーク推進策の一環として、教育現場への導入支援が進む見込みであり、今後市場は堅調に推移し、2019年には、1,054万台に達すると見込んでいます。

日本のタブレット端末需要台数（万台）



■ AV&IT 機器世界需要動向 ～

2019年までの展望～

A4判 33頁 ※「カー AVC 機器世界需要動向 ～ 2019年までの展望～」(A4判 9頁) 付

<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=571&cateid=2>

会員 10,800円 会員外 21,600円

【調査対象国・地域】

世界、日本、中国、米国、西欧、その他国・地域

【調査対象品目】

フラットパネルテレビ、4K(対応)テレビ、放送と通信連携対応テレビ、ケーブルテレビ用STB、録画再生機器(DVD、BD)、デジタルビデオカメラ、ステレオセット、ホームシアター音響システム、デジタルオーディオプレーヤー、パーソナルコンピュータ(デスクトップ型、ノート型)、タブレット端末(個人向け、法人向け)

